

あの日あのとき ③

このコーナーは、東日本大震災が発生した当時の様子などを皆さんにお聞きして連載していくコーナーです。

今回は、海上で地震に遭い、2日間船で過ごしたという高橋和徳さんに話を聞きました。



高橋 和徳さん
(歌泊浜)

海の上で地震に遭遇

私の家では養殖漁業をしていましたので、あの日は、船に乗って養殖施設の見回りをしていました。突然、海の底から「ゴゴゴッ」という音がしたと思うと、乗っている船が大きく上下に揺れました。何が起きているのかわからない状態でしたが、携帯電話の緊急メールにより地震のことを知りました。

しばらくすると、船を避難させるために多くの漁船がこちらに向かってきたので、みんなと一緒に自分の船も5キロ程の沖合に避難させました。

その後、携帯電話で父親から連絡があり、「家も何も全部無くなった。」と知らされましたが、陸地は雪によりかすかにしか見えず、海上でも津波の影響は感じられなかったので、「本当か？」と半信半疑でした。

船で2日間過ごす

とりあえず、その日の夜は海上の船で待機することにしました。携帯電話が繋がらず、家族の安否が気になってしかたありませんでした。翌朝、船は

気仙沼のあたりまで流されていましたが、泊浜の漁港へ向かうと、ものすごい数のガレキや木片などが海上に浮かんでいました。中には、家そのままの状態で見つかるものもありました。それを見たときに初めて、津波による甚大な被害を認識しました。漁港付近は、そのごみのために近寄ることができず、その夜も船で過ごし、3日目にやっと陸地に降りることができました。また、家族の無事も確認することができました。

今後について

今年のホタテは状態が良く、水揚げするのを楽しみにしていただけに、あまりにもショックが大きすぎて、震災直後は気が抜けた感じの日々を過ごしました。また、水や電気など、普段あたりまえのように使っていたものが使えなくなり、こんなにも大変なのかと痛感しました。

現在は、漁業を再開するための準備を少しずつ進めています。南三陸町は、海の資源が豊富にあり、みんなそれを待っています。早く震災前のような仕事ができるように頑張りたいと思います。また、大勢のボランティアの方々が、私たちのために手伝ってくれています。復興して元気な姿を見せることにより、恩返しをしたいと思います。

編集後記

▶秋真っ盛りのこの時期。例年ですと、町内では産業フェアや大漁市などが開催され、秋の味覚でにぎわうわけですが、今年は震災の影響により中止となっています。そんな中、秋サケの水揚げが始まったことは、本当に明るいニュースだと思います。また、町内の川ではサケの捕獲も始まっており、役場の水産担当に聞いたところ、平年は約2万尾のサケが川で捕獲されるようですが、今年は震災で漁船や定置網が被災し、海で獲りきれないサケがいることから、約3万から4万尾のサケが川を遡上してくると予想しているみたいです。獲るほうも大変ですね。

▶大量なのはサケだけでなく、今年はカメムシが大量発生しています。悪臭を放つ虫なので、当地域では「ヘッピームシ」などと呼ばれていますが、全国では様々な名前と呼ばれています。山形県などで呼ばれる「ヘクソムシ」なら、なんとなく分りますが、日本海側の一部地域での呼び名は「ジョンソン」。オシャレというかカッコいいというか…、汗の臭いがしそうですね。 担当 加藤

わが家のアイドル



佐藤 里愛ちゃん

(◎大船沢)

平成23年2月28日生まれ

パパ 克土さん

ママ 瞳さん

おうちの方から一言

里愛♥生まれてきてくれて本当にありがとう。新米パパ・ママとして一生懸命がんばるから、一緒に成長して行こうね！
素直で優しい子に育ててね！